

令和4年度（2022）

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園

穴吹ビジネス専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校 学校関係者評価委員会は、令和4年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施いたしましたので、ご報告いたします。

令和5年3月15日
学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて穴吹ビジネス専門学校の自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、穴吹ビジネス専門学校が行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を評価委員に報告する。

2. 学校関係者評価委員会

(委員)

高橋 宏之	企業等委員 ツー・プライ(株) 取締役
阿部 晋士	企業等委員 あべ動物病院 院長
石井 康夫	企業等委員 福山市医師会 事務局長
田島 建彦	元高等学校関係委員 元高等学校校長
天野 博士	卒業生代表委員
森島 裕策	卒業生代表委員
曾根 大地	卒業生代表委員
中川 千鶴	卒業生代表委員

(学校教職員)

藤井 悦子	穴吹ビジネス専門学校 校長	※司会進行
信岡 誠三	穴吹ビジネス専門学校 副校長	
山下 保	穴吹ビジネス専門学校 部長	
松浦 生幸	穴吹ビジネス専門学校 事務局長	
高橋 忍	穴吹ビジネス専門学校 課長	
藤井 智之	穴吹ビジネス専門学校 課長	
林 勇樹	穴吹ビジネス専門学校 課長代理	

3. 学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 令和5年3月15日(水) 18:30~19:30

開催場所 福山校東町校舎C棟404教室

4. 学生動向 令和4年度穴吹ビジネス専門学校学生数状況

2022年度入学数は254名で、2022年度学生数（R4.4.1時点）は546名でスタート、卒業生数は207名であった。

今年度より新たにネット動画クリエイター学科が新設され、16名の入学生を迎えることができた。

退学者数は24名で全体の4.4%となった。昨年度の5.0%よりも改善しているが、目標は3%未満と設定しているため改善の必要がある。

主な退学理由としては、「精神面での問題」、「家庭の経済状況」、「学習意欲の低下」が挙げられる。

「精神面での問題」については担任による継続したサポートと専門家によるカウンセリングを活用し、改善に繋げていく。「学習意欲の低下」については本校の学習支援システムである学びラボを活用し、学習意欲の向上を図っていく。

5. 自己評価結果の説明・報告（自己評価報告書参照）

当校の「教育理念」、「目的」及び「令和4年度の目標と計画」について説明。各自己評価項目について「評価結果（総括）」、「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」について報告。

各評価項目について、「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である

「D」不十分である の4段階にて評価。

・教育理念、目的、目標

教育理念は穴吹学園で統一したもの「職業教育を通して、地域社会に貢献する人材を養成する。」を設定。

目的、目標は穴吹ビジネス専門学校全体で統一したものとともに、専門分野ごとに独自に設定。

別紙「教育理念・学校教育目標・学科教育目標」を参照。

・学校運営

質問) 曾根委員

穴吹学園の職員のワークタイムバランスはとれていますか。

回答) 山下部長

教育という分野であるため難しい部分もあるが、以前よりも改善している傾向にあります。

回答) 信岡副校長

上司が部下の状況を気にかけて、残業が発生している場合はその原因を一緒に探求し、発生しない取り組みをしているため、現在は残業がほとんどない状況になっています。

・学修成果

各学科が目標をそれぞれに設定し、目標達成に向けて計画的に取り組んでいる。

令和4年度穴吹ビジネス専門学校修学成果報告（主要検定・コンペティション実績）で各学科の目標と達成率を記載している。

質問) 曾根委員

情報システムの検定合格率が低い印象を受けますが、どのような原因でしょうか。

回答) 山下部長

試験体系が変化したため、教育との間に解離がみられるようになったことが原因だと考えています。

より実務的な部分を問われる問題が多くみられ、教育した部分で成果がでにくい状況になりました。

今後は原因を精査しながら、合格率を上げるための取り組みをしていきます。

・自己評価 A 以外の項目の説明

・3-11 地域と協力、連携した教育を行っていますか

県内の他の専修学校・各種学校と協力・連携した教育が実施できていないため全体評価を B 評価とする。

・5-2 より高度な学習・研究ができるよう大学等との併修または接続が可能な体制等を取っていますか

大学との授業連携をしている学科はあるが、単位互換は行えておらず全学科を通じて対応できていないため B 評価とする。

・5-11 卒業生への支援体制を整備していますか

資格、検定等不合格者に対する対策は担任レベルでの支援はあるも学校レベルでの支援体制は整っていない、また、卒業生の能力向上のための研修会等は個人レベルで実施している面もあるが学校レベルでの実施はできていないため全体評価を B 評価とする。

・5-12 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備していますか

大学卒業者の単位振替がなく、大学と互換性がないため全体評価を B 評価とする。

・10-4 高校生等の職業意識涵養に努めていますか

県専各連合会の若年者職業意識涵養事業への参加ができていないため全体評価を B 評価とする。

次年度（令和 5 年度）からは若年層の就労支援として IT ビジネス学科で委託訓練生を受け入れていく予定になっている。

・総括

B 評価の部分もあったがどの項目も総合的には A 評価であり、全体を通して A 評価が妥当と判断した。

ただし、入学・退学率・就職のいずれも目標未達成となっているため、今後も教育内容・学校運営の改善を行っていきたい

質問) 石井委員

始めて参加し自己評価を聞いた印象としては A 評価が非常に多いというのですが、昨年度との比較はどうですか。もし、改善したのであればどういった取り組みで改善しましたか。

回答) 山下部長

⑤卒業生への支援体制の分野の「5-11-c 卒業生の能力向上のため、研修会等を行っていますか」については、動物分野で新たに動物看護師資格が国家資格化したこともあり、申込方法から試験対策に至るまで卒業生に向けたサポート体制を整え、実施しました。こちらは昨年度×をつけていた項目が改善していると判断した項目になります。

回答) 信岡副校長

この自己点検は開始から数年経過しています。開始当初は×が非常に多くありましたが、改善に向けて取り組むことで現在多くの○をつけることができるようになりました。

6. 保護者アンケート結果報告

令和 4 年度卒業生の保護者を対象として実施したアンケート結果について説明。学校の授業内容や支援体制、指導体制等に関する 16 項目の質問に対して、「A」当てはまる 「B」おおむね当てはまる

「C」あまり当てはまらない 「D」当てはまらない の 4 段階にて評価。

・昨年度との比較

⑤「オンライン授業への切り替え時期および判断は適切であった」、⑥「新型コロナウイルスに対する感染対策がしっかりと行われている」の項目については昨年度よりも改善している部分。

ただ、それ以外の項目は 3～5 ポイント程度結果が悪くなっている。

原因として、今年度卒業生はコロナウイルス感染症の影響を大いに受けた印象。オンライン授業の増加により、学生と教職員の交流が減少し、サポート体制の整備が困難になったことや直接指導ができなかったことが考えられる。

また、学校としてはアンケート回収率が91%であることや回答の記入なしが多くみられる項目についても問題と考えている。回収率100%を目指し、質問内容の再考も検討していく必要がある。

7. 修学成果報告

学校内の情報を学外の方へ発信する場面が少ないため、ホームページでニュース&トピックスとして学生が行った様々な取り組みを紹介している。デザイン系学科が福山市の「ばらの日ポスター」に採用されたニュース、医療事務系学科が全国学術大会で最優秀賞を受賞したニュースなどを掲載しており、入学希望者や保護者だけではなく、多くの企業様にも見てもらいたいと考えている。

8. 内定状況報告

令和4年度内定状況の報告

ほとんどの学科で地元志向が強くみられる。学校としても地元で活躍し貢献できる人材育成に取り組んでいく。

8. 意見交換

高橋委員

何年も継続して会議に参加していますが、自己評価の×の項目は少なくなっている印象を受けています。ただ、その中でも継続して×がついているものがありますが、こちらは若干諦めているのでしょうか。私の取り組みとして特別支援学校の見学をしています。問題を抱えた学生が努力し、物事に取り組む姿勢を見て、多くの刺激を受けることができています。これは専門学生にとっても良い経験となるのではないのでしょうか。広島県にある支援学校を訪問していますが、企業参観日や授業見学など見学する機会はあります。③教育活動の項目の他の学校との連携の項目に当てはまると思うので検討されてはいかがでしょうか。

藤井校長

調理校の教員が支援学校へ行き、体験授業をしています。その意見として、学生に参加させてみたいという声も出ています。今後参加を検討していくのは良いかもしれません。是非とも具体的な情報を教えていただけるとありがたいです。

石井委員

この3年間程対面授業ができない状況が多くありました。ただ、今後はコロナウイルス感染症への対策も変化していくことが決定し、教育現場も変化が起これと予想されます。具体的には、対面授業が基本になり、マスクを外すこともできるようになることなどです。ただ、その授業を受ける学生たちはコロナ禍での授業に慣れた子たちであるため、すんなりと受け入れることは難しいと思っています。そこに向けての取り組みは何か考えているのでしょうか。

山下部長

専門学校は高校等での教育とは若干異なり、実習時間が多数を占めています。そのため、対面授業が基本であり、コロナ禍でも可能な限り対面授業で実施してきました。この体制でこれまでの印象としては、そこまでの難しさはなかったという印象です。オンライン授業に慣れてしまった高校生に向けた対策については、今後検討を重ねていく段階です。

以上を持ちまして令和4年度穴吹ビジネス専門学校学校関係者評価委員会を終了します。

貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。これからも皆様のご期待に添えますよう、

教職員一同、日々努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

以 上